

**福岡県
地球温暖化防止
活動推進センター
事業報告書
2019**

2020年3月

一般財団法人 九州環境管理協会

センターの役割



一般財団法人九州環境管理協会は、福岡県知事より「福岡県地球温暖化防止活動推進センター（以下、「県センター）」の指定を受け、今日まで福岡県内の地球温暖化防止対策に関する普及啓発の拠点として役割を担ってきました。今年度、第4期2年目となります。

県センターでは、基本的な活動として福岡県の地球温暖化対策に関する①情報提供、②広報・啓発、③活動支援、④照会・相談、⑤調査・研究の5項目を軸に事業展開を行っています。

本報告書は、県センターが実施した2019年度事業の内容及び実績についてとりまとめたものです。

目次

はじめに

■ 福岡県補助事業

1 地球温暖化対策に関する啓発・広報活動

1-1 県民への情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 推進員、地域のNPO等活動支援

2-1 啓発資材の貸出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2-2 推進員地域連絡会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2-3 講師派遣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3 住民等からの照会・相談対応

3-1 照会・相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

4 NPO、企業、行政のネットワーク化

4-1 NPO・団体との協働・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

4-2 協議会等への参画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

5 温室効果ガス排出実態調査・分析

5-1 温室効果ガス排出量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

5-2 エネルギー消費量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

■ 福岡県委託事業

6 エコファミリー応援事業

6-1 エコファミリー募集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

6-2 削減効果分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

7 省エネルギー相談事業

7-1 事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

7-2 現地相談の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

■ 環境省補助事業

8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

8-1 エコ出前講座の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

8-2 大学と連携した COOL CHOICE 啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

8-3 推進員の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

おわりに

福岡県補助事業

1 地球温暖化対策に関する啓発・広報活動

1-1 県民への情報発信

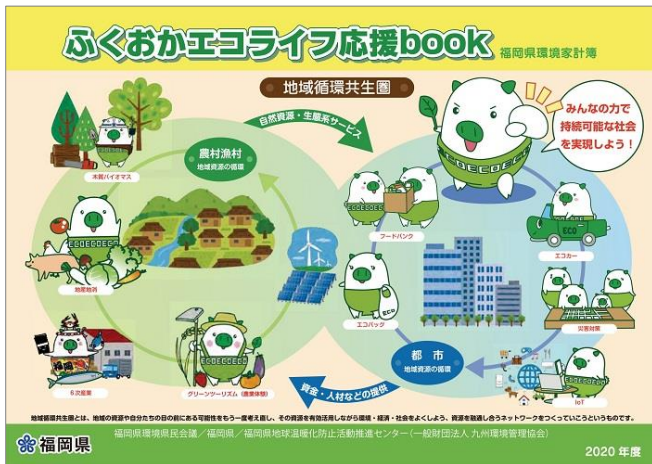
県センターでは、WEB（ふくおかエコライフ応援サイト）、紙面（減CO2クラブ、福岡県環境家計簿）等を通して、地球温暖化に関する最新情報、推進員活動の様子等について情報発信を行っています。



福岡県環境家計簿の発行

県センターでは、家庭でのエコ活動を促進するツールとして、福岡県環境家計簿を作成しています。カレンダー形式でその月に実践すると効果的なエコ活動を記載しており、わかりやすいと好評です。

2020年度版は表紙テーマを地域循環共生圏とし、県民の環境意識の向上と持続可能な社会づくりへの意識醸成を図っています。



ふくおかエコライフ応援サイトの更新

ふくおかエコライフ応援サイトでは、2019年度新たに委嘱された推進員情報を掲載したほか、推進員のイベント計画および活動報告書を随時掲載し、推進員の知名度向上を図っています。

サイト総カウント数：1,062,773回

期間：2019年3月～2020年2月

情報誌「減CO2クラブ」の発行

県センターでは、地球温暖化等に関する最新情報やセンター活動等を掲載した情報誌「減CO2クラブ」を毎年12月に2,000部発行しています。今年は水災害、プラスチックごみ、エシカル消費など話題の記事を掲載しました。



7月 熱中症を予防しよう

熱中症予防強化月間

JULY						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

熱中症は予防が大切です

こんな日は熱中症に注意
 ・気圧が低い、雨が強い、湿度が高い、気温が高くなった
 こんな方は特に注意
 ・肥満の人、持病のある人、体調が悪い人、高齢者、高齢者に慣れていない人

熱中症の予防
 ・日傘、帽子、涼しい服装、水分をこまめに取る
 ・朝・夕は涼しい服装をしい、こまめに休憩
 ・熱くなった汗は乾かさないで、こまめに拭き取る
 ・汗をかいた時は塩分の補給も忘れずに

部屋のなかでは大丈夫?
 部屋中は、室内気温を多く発生してしまします。すたれやカーテンで直射日光を遮る、換気をして部屋の新しい空気を入れる、必要に応じてエアコン等を使用するなどして室温に気を配らなければいけません。

暑さを感じたときの注意
 ・めまい、吐き気、頭痛、意識障害、めまい、熱射病、熱中症、熱衰竭、熱昏倒、熱失神、熱けいこ、熱中症、熱射病、熱衰竭、熱昏倒、熱失神、熱けいこ

暑さを感じたときの注意
 ・めまい、吐き気、頭痛、意識障害、めまい、熱射病、熱中症、熱衰竭、熱昏倒、熱失神、熱けいこ

福岡県補助事業

2 推進員、地域 NPO 等活動支援

2-1 啓発資材の貸出

県センターでは、推進員や NPO のほか、一般県民を対象に地球温暖化に関する普及啓発ができる資材を貸出しています。

今年度は貸出の多かった順に、エコト影响着ぐるみ(47回)、エコトンパネル(12回)、パネルクイズ関連セット(11回)、気候変動パネル・スタッフジャンパー(同率9回)など、併せてのべ164回貸出しました。

また、今年度は NPO からの依頼を受けて、SDGs 啓発用のパネルを作成しました。



SDGs(持続可能な開発目標)

SDGsとは、2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略称で、**持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17のゴールと169のターゲット**から構成されています。

タイトル	ロゴ	目標	ターゲット	タイトル	ロゴ	目標	ターゲット
1 貧困	SDG 1	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	1.1 2030年までに世界で最も貧乏な人々の所得をあらゆる面で倍増させる(絶対的)	10 不平等	SDG 10	各国内及び各国間の不平等を公正化する	10.1 世界の所得下位40%の所得成長率に、ついで、所得半増を目標とする持続可能な開発のために、持続可能な開発目標を達成する(第11目標)
2 飢餓	SDG 2	飢餓を終わらし、食料安全保障及び栄養改善を達成し、持続可能な農業を促進する	2.1 2030年までに、全ての人が安全かつ栄養が豊富で健康的な食料に十分なアクセスを確保できるようにする(第10目標)	11 持続可能な都市	SDG 11	包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を構築する	11.1 全ての人の移動、安全かつ持続可能な都市の輸送サービスへのアクセスを確保する(第10目標)
3 健康	SDG 3	あらゆる年齢の全ての人の健康的な生活を促進し、福祉を改善する	3.6 2030年までに交通事故による死者を半減させる(第12目標)	12 持続可能な消費と生産	SDG 12	持続可能な消費と生産を奨励する	12.1 2030年までに資源の持続可能な消費及び資源の効率的な消費を達成する(第11目標)
4 教育	SDG 4	全ての人に質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	4.7 2030年までに、全ての人が気候変動に関する持続可能な開発目標の理解を深め、行動を起こすことができるようになる(第13目標)	13 気候変動	SDG 13	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を加速させる	13.1 気候変動による危険性の削減、脆弱性の軽減及び適応策の促進を確保する(第11目標)
6 シェンダー	SDG 6	全ての女性及び男子の権利と機会を確保する	6.1 2030年までに、全ての女性及び男子が安全かつ持続可能なトイレ、トイレ、トイレにアクセスできるようにする(第14目標)	14 海洋資源	SDG 14	持続可能な開発のための海洋・海洋資源を保護し、持続可能な形で利用する	14.1 2030年までに汚染を削減し、海洋生態系を回復させる(第10目標)
6 水・衛生	SDG 6	全ての人の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	6.4 2030年までに、世界の淡水資源の持続可能な取扱いを確保する(第14目標)	15 陸上生態系	SDG 15	陸上生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な開発のための生態系の持続可能な管理の促進、砂漠化の防止、並びに土壌の劣化の防止、森林及び陸生生物多様性の損失を防止する	15.1 2030年までに陸生生物多様性の損失を防止し、持続可能な利用を確保する(第10目標)
7 エネルギー	SDG 7	全ての人の、安かつ清潔で持続可能なエネルギーへのアクセスを確保する	7.1 2030年までに、安全かつ持続可能なエネルギーを確保する(第14目標)	16 平和	SDG 16	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を構築し、全ての人に権利のアクセスを確保し、あらゆるレベルで、包摂的で透明な意思決定のある包摂的な制度を構築する	16.1 2030年までに、あらゆるレベルで持続可能な開発目標の達成を妨げる暴力と破壊的行動を削減する(第12目標)
8 経済成長と雇用	SDG 8	包摂かつ持続可能な経済成長及び全ての人の働きがいと雇用の創出を促進する	8.4 2030年までに、世界の国内総生産(GDP)を少なくとも2倍にする(第12目標)	17 気候変動	SDG 17	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを構築する	17.1 2030年までに、開発途上国への開発資金供給を少なくとも2倍にする(第12目標)
9 インフラ、産業化、イノベーション	SDG 9	強靭(レジリエント)なインフラ構築、包摂かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	9.1 2030年までに、世界の製造業の付加価値を少なくとも2倍にする(第12目標)				

福岡県地球温暖化防止活動推進センター作成(2019年)

2-2 推進員地域連絡会

■ 推進員の在籍数

2019年4月25日、福岡県吉塚合同庁舎において「第8期福岡県地球温暖化防止活動推進員」の委嘱式が行われました。

推進員数：94名

任期：令和3年3月31日まで

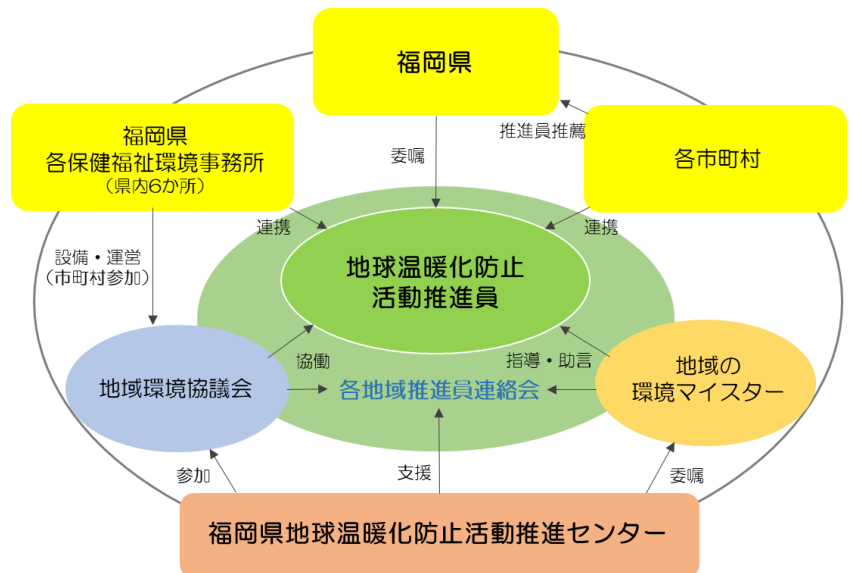
地域名	推進員数
北九州・京築	19名
福岡・筑紫	15名
宗像・遠賀	15名
筑豊	23名
久留米・北筑後	12名
大牟田・南筑後	10名

■ 推進員の主な活動

- ・ 自ら日常生活において温暖化防止活動を実践する
- ・ 地域住民に対し、講座やイベントのブース出展等を通して温暖化に関する普及啓発を行う
- ・ 福岡県や県センターが主催する研修会等に参加し、資質向上に努める

推進員の支援体制

県センターでは、福岡県保健福祉環境事務所が所管する6地域をベースに、行政と推進員らの連携強化を図るための推進員地域連絡会を設置し、推進員活動を支援しています。



地域連携エコ活動支援金の運用

福岡県補助事業では、推進員が地域活動を行う予算として計 150 万円 (1 地域 25 万円) を計上しています。この予算は、主に推進員地域連絡会の開催、地域イベントのブース出展、エコ出前講座の開催等の費用として使われています。

■ 推進員地域連絡会の開催

推進員、市町村、県（福岡県環境保全課、地域保健福祉環境事務所）、県センターが集まり、推進員地域連絡会を延 12 回（6 地域×1～3 回）開催しました。連絡会では今年度の活動計画や活動報告、情報交換などを行いました。



■ 地域イベントでのブース出展

県内各地で行われる地域イベントに、ブース出展を行い、来場者に対し地球温暖化に関する普及啓発を行いました。

小郡アンビシャスフェスタ

開催日時：11/4 9：00～13：00

開催場所：小郡市生涯学習センター

概要：気候変動に関するパネルを掲示、パネルを見ながらクイズを解くパネルクイズを実施しました。



小学校でのエコ出前講座

開催日時：9/13 10：35～12：15

開催場所：水巻町内小学校

概要：SDGs の視点から地域のごみ問題、食品ロスについて学び、ごみを実際に分別したり、自分たちが頑張ることを紙に書いて木を作ったりしました。



推進員活動件数：63 回

啓発人数：15,415 人

CO₂ みなし削減量：2,123t-CO₂/年

■ 年間換算みなし CO₂ 削減量の算出方法

人数×0.138t/人・年×1.0（展示・講演等）= ●●t-CO₂/年

※出典：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

「平成 28 年度地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業委託業務報告書」

※以降、注釈がないものについては、この方法で算出しています

福岡県補助事業

2 推進員、地域 NPO 等活動支援

2-3 講師派遣

県センターでは、幼稚園・保育園の園児から高齢者までの幅広い年代を対象に、講師を派遣して地球温暖化防止等について啓発しています。

■エコアドバイザー派遣

主に一般県民や、小学生以下の児童を対象とした講師派遣事業です。

市民を対象としたグリーンカーテン講座、エコクッキング講座、熱中症とエコ活動のコラボ講座のほか、小学生を対象とした温暖化に関する講座、夏休みの学童保育を対象とした省エネ講座、生物多様性に関する講座など、内容は多岐に渡ります。

■3世代まるごとエコ出前講座

3世代まるごとエコ出前講座はエコアドバイザー派遣の一つで、幼稚園・保育園の園児、園児の保護者、そして園児の祖父母の3世代にわたりエコ活動を普及啓発することを目的とした出前講座です。

エコアドバイザー派遣

2019年度は、一般県民、小学生やその保護者等を対象とした講座を計41回実施しました(3世代まるごとエコ出前講座は含まず)。グリーンカーテンや食、水、生物などの切り口から地球温暖化とその影響について学び、自分たちにできることについて考える機会となりました。



3世代まるごとエコ出前講座の開催

本講座は、水、食、ごみ等を通じて環境や地球温暖化について学習し、子どもたち自身ができることについて学ぶものです。講座後は子ども環境家計簿食育編をわたし、家に持ち帰って子どもたちが保護者と一緒にエコ活動を実践してもらいます。

希望の園には祖父母に送るポストカードを、また各園にはエコについて学べる絵本をそれぞれ進呈しています。1回限りの講座では定着しにくいエコ活動について、絵本で繰り返し読み聞かせることで、その定着を図っています。

本講座は大変好評で、毎年募集開始から一週間足らずで申込がいっぱいになります。本年度も多数の応募があり、計50箇所の園で講座を実施しました。



講座回数：92回(計画100回)

啓発人数：4,969人

CO₂みなし削減量※：205.2t-CO₂/年

※CO₂みなし削減量…子ども環境家計簿食育編の実践報告をもとに算出

2-3 講師派遣

■環境マイスター派遣

主に中学校以上の教育機関、企業、市・教職員等を対象とした講師派遣事業です。

教職員を対象とした環境教育に関する講演、EA21 取得希望事業者への支援、地域の環境教育・環境行政に携わる人々を対象とした講演等を行っています。

環境マイスターは、規定の有資格者（技術士（環境部門）、エネルギー管理士、エコアクション 21 審査員、環境カウンセラー等）、もしくは同等の知識を有していると認められる方で、現在 47 名を登録しています。

■うちエコ診断制度

各家庭でどのようなことを実践すると省エネにつながるのか、資格を持ったうちエコ診断士が対面でアドバイスをする診断制度です。



年間の電気使用量・車の利用状況等をヒアリング後、無理のない省エネ方法を受診者と検討する

県センターでは、市町村と連携して地域イベントでのうちエコ診断会や、市町村担当者を対象としたうちエコ診断を実施しています。福岡県エコファミリー応援事業では、うちエコ診断を受診・報告するとエコポイント 500P がもらえる仕組みになっています。

環境マイスター派遣

2019 年度は、市町村担当者向けの研修や企業研修、教職員対象の環境教育についてのワークショップ、EA21 取得を希望する事業所に環境マイスターを派遣しました。

環境マイスター派遣の事後アンケートでは、講演内容についての設問に対し、よくわかったという回答が大半を占め（13/14 件）、依頼者の満足度が大変高かったことが分かりました。



講座回数： **17** 回（計画 25 回）

啓発人数： **448** 人

CO₂ みなし削減量： **61.8**t-CO₂/年

うちエコ診断

2019 年度は計画 100 件に対し、109 世帯うちエコ診断を行いました。事後調査票の結果をもとに、本事業による CO₂ 削減量は 26.8t-CO₂/年と推定されます。

市町村別実施件数

	市町村名	件数
1	古賀市	24
2	福岡市・筑後市	14
3	大川市	10
4	飯塚市・八女市・大木町	9
5	大牟田市	5
6	宗像市・小竹町	3
7	柳川市・宮若市	2
8	田川市・小郡市・福津市・糸島市・新宮町	1
		109

3-1 照会・相談

県センターでは、県民からの地球温暖化等に関する照会、相談等について随時受け付けています。

2019年度は幼児に対する環境教育の研究を行っているスウェーデンの方が、福岡女子大学の先生方と来協され、県センターが行っている園児対象の環境教育についてヒアリングを受けました。

また、2つの県立高等学校から高校生が来協し、SDGsや気候変動についての調べ学習の一環として、気候変動の現状や将来予測等について教えてほしいとの相談を受け、対応しました。



来館者数：

のべ200人

コラム

子どもから大人へ、エコ活動の普及

県センターでは、福岡県環境保全課、各保健福祉環境事務所と連携して、福岡県内の小学校を対象に、子ども環境家計簿の実践を呼び掛けています。これは主に夏休みや冬休みに、家族と一緒に1週間エコ活動に取り組むための教材です。「シャワーの利用時間を1分短くする」「冷蔵庫はできるだけあけず、あけてもすぐに閉める」など、子どもたちでも実践できるエコ活動が書いてあります。今年度は、75校、2,721人の子どもたちが自宅家族とともにエコ活動を実践、報告してくれました。

提出されたアンケートには、「これからもエコ活動に取り組みたいです」という設問に対し、子どもたちの98%が「そう思う」または「少し思う」との回答がありました。また、保護者アンケートでは、「これまでの生活よりエコ活動は増えましたか?」という設問に対し、93%が「とても増えた」または「少し増えた」との回答がありました。

自由記述欄では、「あまりエコについて気にしていなかったけど、もっと気にしようと思った」「エコ活動をするのは大変だったけど、これからも続けてみたいと思いました」など、子ども環境家計簿を実践することで、子どもたちの意識が変わったことがうかがえました。また保護者の自由記述欄では、「家族で注意しあいながらエコ活動ができた」「親の意識改革になった」など、子どもだけではなく、同居する家族のエコ活動も促したことがうかがえました。

県センターでは今後も引き続き子ども環境家計簿を配布し、幅広い年代に対し普及啓発を行っていきます。

エコチェックシート

1日の終わりに今日できた取り組みには「エコトシール」を貼ろう!

項目	月	日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	1週間合計
1	シャワーを浴び時を1分短くしよう。									
2	テレビは長時間の番組だけをみるようにしてつけっぱなしにしないようにしましょう。									
3	尿やうんちはなるべく受けず、あけてもすぐにしめよう。									
4	使っていない部屋の電気を、こまめに消そう。									
5	エアコンの設定温度を夏は1℃高く、冬は1℃低くしよう。室内温度が28℃を20℃									

1日の合計: 1日に何枚のエコトシールを貼入して? エコトシールは1欄につき1枚のみ。5日: 2:00枚、4~2日: 6:00枚、1~9日: 0:00枚

実行を怠らなくて、家の電気を節約するのを目指しましょう!

アンケートにご協力ください。家でできるエコ活動に挑戦してみたいですか? 1. たくさん 2. 少し 3. ほとんどない

これからのエコ活動に挑戦しましたか? 1. たくさん 2. 少し 3. ほとんどない

これからのエコチェックシートをつけてみたいですか? 1. たくさん 2. 少し 3. ほとんどない

取り組んだ感想を書いてね!

ご協力ありがとうございました。

署名された方の名刺を、必ず500円程度の現金カードを3枚添付してください!

名前: _____

〒 _____

学校や幼稚園・保育園の名前: _____

今年 年 月 日

福岡県補助事業

4 NPO、企業、行政のネットワーク化

4-1 NPO・団体との連携

県センターでは、NPO、企業、団体等からの依頼を受けて、講演やイベント出展等を行っています。

2019年度は、エフコープ協同組合主催イベントでブース出展したほか、座談会の出席、福岡県電機商工組合加盟店講習会での講演等を行いました。

エフコープのイベントでは、子どもたちにはもったいないクイズに取り組んでもらい、家の中でのもったいないをなくそうと呼びかけ、大人にはエコファミリー事業への参加を促しました。



4-2 協議会等への参画

県センターでは、県内で開催される地球温暖化等に関する協議会や委員会等への参画、講演等を行いました。今後もあらゆる機関と協働して、気候変動等に関する活動を活発化させていきます。

センターが参画した協議会等一覧（令和元年度）

	開催日	名称	開催場所	支援内容
1	5月23日	2019年度第1回九州版炭素マイルージ制度推進協議会	電気ビル共創館	協議会委員
2	5月28日	令和元年度福岡市地球温暖化対策市民協議会総会	TKPガーデンシティ天神	幹事会委員
3	6月4日	セミナー持続可能な「里地里山保全・再生事業」を目指して（一般社団法人九州循環共生協議会）	久留米大学学生会館	後援
4	6月20日	令和元年度宗像・遠賀・粕屋地域環境協議会	宗像総合庁舎	オブザーバー
5	7月25日	エコファミリー登録・報告アプリ開発・運用業務に係る選定委員会	福岡県庁	委員会委員
6	7月29日	第1回気候変動適応九州・沖縄広域協議会	TKPガーデンシティ博多	協議会メンバー
7	8月29日	令和元年度福岡市地球温暖化対策実行計画協議会	天神NKビル	協議会委員
8	9月4日	令和元年度第1回福岡県気候変動適応協議会	吉塚合同庁舎	協議会委員
9	10月29日	令和元年度地域における省エネ家電買換促進会議	TKP熊本カナルセンター	講師・アドバイザー
10	11月11日	令和元年度エコ事業所表彰審査会	吉塚合同庁舎	審査会委員
11	11月14日	令和元年度第2回コージェネレーション導入セミナー	福岡国際会議場	講師
12	11月19日	第53回気象情報連絡会	福岡管区气象台	連絡会委員
13	11月21日	令和元年度第1回久留米市地球温暖化対策協議会	久留米市環境部庁舎	協議会委員
14	11月27日	九州自然エネルギー経済フォーラムinみやま	みやま市バイオマスセンター	後援
15	11月28日	環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業意見交換会（一般社団法人九州循環共生協議会）	久留米大学学生会館	後援
16	1月27日	令和元年度地球温暖化対策市町村担当職員研修会	吉塚合同庁舎	講師
17	2月19日	第16回地域エネルギー・温暖化対策推進会議	リファレンス駅東ビル	会議構成委員
18	2月20日	第2回気候変動適応九州・沖縄広域協議会	TKPガーデンシティ博多	協議会メンバー
19	2月21日	令和元年度第2回福岡県気候変動適応協議会	中小企業振興センター	協議会委員

5-1 温室効果ガス排出量

県センターでは、特定事業者からのアンケート回答、国や県等の統計データをもとに、2017年度福岡県内の温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）を算定しました。

- ・2017年度の温室効果ガス総排出量は6,043万トン
- ・基準年度（2013年度）と比べて11.5%減少、前年度より0.7%減少
- ・廃棄物部門と、代替フロン等が基準年度と比較して増加
- ・民生（家庭）部門の排出量減少は、電源構成変化に伴うCO₂排出係数の低下が主因
- ・運輸（自動車）部門の排出量減少は、エネルギー消費原単位の低下（燃費改善、燃費のいい車の普及）が主因

福岡県の温室効果ガス総排出量総括表

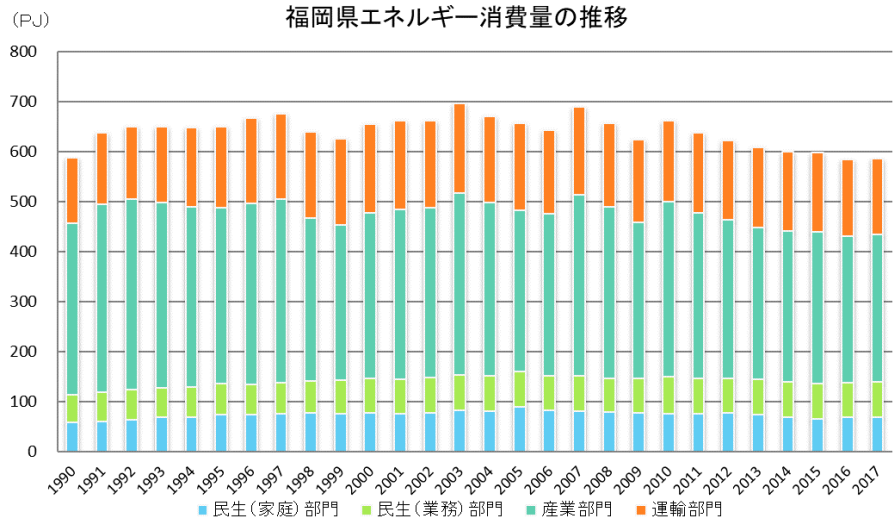
温室効果ガス排出区分	基準年度 2013年度 (万トン)	前年度 2016年度 (万トン)	前年度からの 増減率 (%)	現況 2017年度 (万トン)	増減率 対基準年度 (%)	(参考) 全国の増減率 対基準年度 (%)
合計	6,830	6,088	-0.7	6,043	-11.5	-8.4
二酸化炭素	6,616	5,839	-0.9	5,786	-12.6	-9.6
エネルギー起源	5,859	5,115	-1.1	5,057	-13.7	-10.1
エネルギー転換 (発電所等)	66	57	-2.8	56	-15.8	-8.4
民生（家庭）部門	869	675	-4.0	648	-25.4	-10.7
民生（業務）部門 (商業・サービス・事業所等)	994	760	-4.1	729	-26.7	-12.2
産業部門 (工場等)	2,827	2,580	0.2	2,585	-8.6	-11.2
運輸部門 (自動車・船舶等)	1,103	1,042	-0.2	1,040	-5.8	-4.9
非エネルギー起源	757	724	0.6	729	-3.7	-3.4
工業プロセス部門 (セメント製造等)	686	655	0.1	656	-4.3	-4.0
廃棄物部門 (一廃・産廃)	71	69	5.8	73	2.3	-1.8
メタン	41	38	-3.3	36	-11.7	-6.9
一酸化二窒素	50	45	-0.2	45	-8.8	-5.2
代替フロン等4ガス (HFC、PFC、SF ₆ 、NF ₃)	123	166	5.6	175	42.8	30.4

注) 端数処理のため、増減率が一致しない。

5-2 エネルギー消費量

- ・2017年度のエネルギー消費量は586PJ（ペタジュール）
- ・基準年度（2013年度）と比べて13.8%減少、前年度より0.4%増加
- ・民生（家庭）部門は基準年度比5.5%減少、前年度比0.4%減少
- ・運輸（自動車）部門の基準年度比5.2%減少、前年度比0.1%減少
- ・民生（業務部門）、産業部門は前年度比ともに1%弱増加

福岡県エネルギー消費量の推移



福岡県委託事業

6 エコファミリー応援事業

福岡県では、家庭生活や事業活動におけるエネルギー使用の状況・方法等の見直しを促すことによって、エネルギー有効利用とCO₂排出量の減少を図ることを目的に、「エコファミリー応援事業」を実施しています。

県センターは本事業を円滑に推進するために、ポスターやチラシ、エコファミリーへの送付書類一式、エコチケットの作成・配布・発送のほか、新規エコファミリー募集登録、データ入力、取組結果を用いた事業効果分析等を行いました。

6-1 エコファミリー募集

大型商業施設での街頭啓発によるエコファミリー新規登録や、ふくおかエコライフ応援サイトからの申込、推進員の地域イベントでの登録勧誘などにより、新たに1,569名を登録しました。

地域名	登録数	割合 (%)
福岡・筑紫	238	15.2
北九州・京築	288	18.4
嘉穂・鞍手	148	9.4
宗像・遠賀	396	25.2
久留米・北筑後	235	15.0
大牟田・南筑後	264	16.8
合計	1,569	100.0

普及用資材等の作成・印刷

本事業を広く県民に普及するために、エコトンのイラストが入ったポスター、ちらし、新規登録促進用グッズを作成しました。



大型商業施設等での街頭啓発

県センターでは、県内6か所のイオン、道の駅むなかたでエコファミリーを募集しました。人目につくようにエコトン着ぐるみを用いたり、「福岡県地球温暖化防止活動推進センター」ののぼりを掲示したり、周辺にポスターを貼るなどしてブースを設け、来店者に声をかけて募集を行いました。



新規登録者数： **499** 人

街頭啓発数： **19** 回

6-2 削減効果分析

県センターでは、エコファミリーからの「半年分の取組」と「6つの取組」の報告データを入力し、このうち半年分の取組結果の報告データを用いて、CO₂削減効果分析を行いました。

■ステージ別報告内容

- ・第1ステージ：電気使用量
- ・第2ステージ：電気・ガス・水道使用量
- ・第3ステージ：電気・ガス・水道・車燃料・灯油使用量、燃えるゴミ排出量

■半年分の取組

ステージごとに、半年分の電気・水・ガス等のエネルギー使用量、ガソリン・軽油・灯油購入量、可燃ごみの廃棄量等の報告を入力。

平成30年度下半期報告数：658世帯
令和元年度上半期報告数：719世帯

■6つの取組

「電気使用量の報告・削減」、「グリーンカーテン等の設置」「LEDの購入」「省エネ家電（エアコン、TV、冷蔵庫）の購入」「うちエコ診断の受診」「コンポストの設置」の地球温暖化防止につながる6つの活動を実践した報告を入力。

平成30年度下期報告数：715世帯
令和元年度上期報告数：986世帯

■分析方法

- ・節電効果分析
世帯人員別・住居形態別（戸建、集合）電気使用量からCO₂排出量の算定、前年度比で節電効果を分析
- ・属性別CO₂削減効果分析
世帯人員別各エネルギー使用量の集計結果より、エネルギー種別CO₂排出量の算定、前年度比で属性別CO₂削減効果を分析
- ・ステージ別CO₂削減効果分析
ステージ別エネルギー使用量からCO₂排出量の算定、前年度比でステージ別CO₂削減効果を分析

平成30年度下半期

- ・分析対象は482件（無効データ176件を除く）
- ・節電効果分析では、電気使用量を15万kWh削減、それに伴いCO₂排出量を80t-CO₂削減
- ・属性別CO₂削減効果分析では、世帯人員別ではすべての世帯人員で削減、エネルギー種別では、軽油以外のすべてのエネルギーで削減
- ・ステージ別CO₂削減効果分析ではすべてのステージで10%前後削減

電力削減量：150,997kWh/半年

CO₂削減量※：9.6t-CO₂/半年

※CO₂削減量…エコファミリー実践報告をもとに算出

令和元年度上半期

- ・分析対象は567件（無効データ152件を除く）
- ・節電効果分析では、電気使用量を7万5千kWh削減、それに伴いCO₂排出量を約4万kg-CO₂削減
- ・属性別CO₂削減効果分析では、世帯人員別ではすべての世帯人員で削減、エネルギー種別では、都市ガス・ガソリン以外のすべてのエネルギーで削減
- ・ステージ別CO₂削減効果分析ではすべてのステージで3~6%弱削減

電力削減量：75,013kWh/半年

CO₂削減量※：4.1t-CO₂/半年

※CO₂削減量…エコファミリー実践報告をもとに算出

結果

- ・平成30年10月~令和元年9月までの1年間で、電気使用量、CO₂排出量ともに対前年比削減となった。
- ・前年と比べて夏は気温が低く、冬は気温が高かったため、冷暖房の利用が減ったことが主因と考えられる。

電力削減量：226,010kWh/年

全体のCO₂削減量※：13.7t-CO₂/年

※CO₂削減量…エコファミリー実践報告をもとに算出

福岡県委託事業

7 省エネルギー相談事業

福岡県では、事業者部門からの温室効果ガス排出量を削減することを目的に、現有設備の運用改善や更新などを検討されている県内の事業所を対象に、省エネに関するアドバイスを無料で行う「省エネルギー相談事業」を実施しています。

県センターでは、申込があった事業所に専門家を派遣し、専門家の相談回答書を点検、交付するほか、事業効果を確認するためのアンケート調査等を行っています。

7-1 事業の概要

■ 対象

福岡県内の事業所：80 社

■ 内容

専門家より、事業者に対し設備の運用改善方法・省エネ型設備への更新による経済効果等の助言、助成制度の情報提供等各種支援を無料で行いました。

■ 事業者のメリット

- ・コスト削減
- ・業務改善
- ・人材育成
- ・地球温暖化防止への貢献

事業フロー

申
込

相談申込書を下記窓口にメールか FAX で送信

窓口から受付および相談内容の確認連絡

現
地
相
談

現地相談を行う場合、相談日程を調整

専門家による 2～3 時間の現地相談の上、省エネ診断を実施

回
答

診断結果に基づき、運用面や投資面に関する回答書を相談者に交付

回答後も追加的な問合せや実際の設備更新に当たっての相談などをフォロー

7-2 現地相談の実績

電話・メールでの相談：10 件

現地相談：80 件

設備更新による省エネ効果

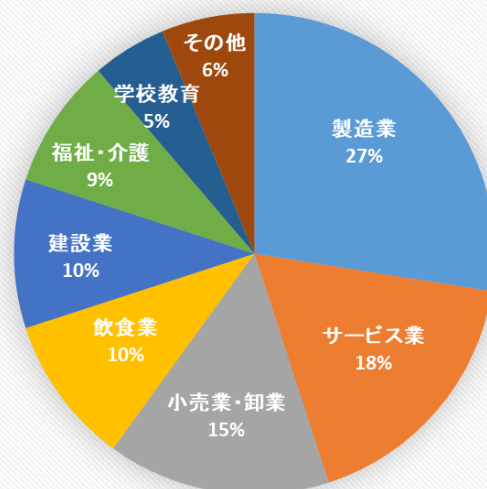
電力削減量：

1,935 千 kWh/年

CO₂ 削減量※：671 t-CO₂/年

※CO₂削減量 = 電力削減量 (kWh) × 0.347 kg-CO₂/kWh (2018 年度排出係数)

現地相談事業所の業種内訳



環境省補助事業

8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

県センターでは、環境省補助事業として、地球温暖化防止等について学ぶエコ出前講座を県内各地で開催したほか、推進員の資質向上のため推進員研修会を開催しました。また、地球温暖化対策の国民運動 COOL CHOICE を広く普及させるため、今年度より県内の大学と連携を図っています。本年は、九州大学、福岡女子大学、福岡大学にご協力いただき、授業の中で COOL CHOICE に関する講座等を行ったり、環境イベントへの共同出展、COOL CHOICE を大学生に普及させるためのポスターを作成したりしました。

8-1 エコ出前講座の開催

気候変動や COOL CHOICE を普及させるためのエコ出前講座を県内 30 か所で実施しました。

老人会を対象に、推進員と保健師がコラボした熱中症と温暖化対策講座や、親子で工作体験を通して温暖化について学ぶ講座、小学校・保育園での子ども向け講座など、老若男女幅広い世代に地球温暖化等について普及啓発することができました。

講座開催：30 回

受講者数：1,317 人

CO₂ みなし削減量：

181.7 t-CO₂/年

COOL CHOICE 賛同数：504 人



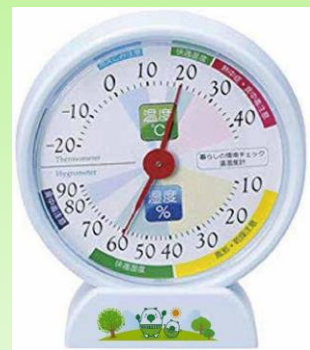
コラム

温湿度計で熱中症対策

老人会を対象としたエコ出前講座では、①熱中症は室内でも起こっていること、②熱中症は温度だけではなく湿度も重要な要因であること、③年をとると暑さを感じにくくなること、④体感ではなく実際の数値を参考に行動することなどを伝え、また、こうした熱中症が起りやすくなっている背景として地球温暖化による気候変動による影響があることをお話しました。

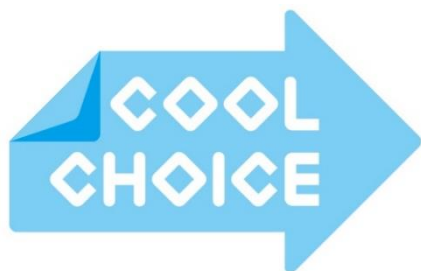
講座後にはエコファミリー新規登録者に温湿度計をプレゼントしました。

気候変動対策は、緩和策のみならず適応策も同時に進めていかなければなりません。県センターでは今後も適応策の普及を進めていきます。



温湿度計には「熱中症注意」「風邪乾燥注意」などの範囲がわかるようになっています

8-2 大学との連携による COOL CHOICE 普及啓発



未来のために、いま選ぼう。

大学での COOL CHOICE 普及

県内の 2 大学（福岡大学：11/18、福岡女子大学：12/2）で COOL CHOICE に関する講座を行い、大学生の COOL CHOICE の普及・賛同促進を図りました。

本講座では、気候変動の現状と将来予測、日本の約束草案、国民運動 COOL CHOICE の役割とその具体的な内容について説明し、COOL CHOICE の賛同を呼びかけました。

受講者数：141 人

COOL CHOICE 賛同数：141 人

むなかた環境フェスタ 2019 へのブース出展

■ 概要

県センターでは、福岡女子大学の岩崎ゼミと連携し、むなかた環境フェスタに共同出展を行いました。

開催日時：11月23日（土）

10：00～15：00

開催場所：メイトムむなかた

参加者：学生ら7名、センター3名

出展目的：クイズや体験を通して

COOL CHOICE を学ぶ

出展内容：パネルクイズ、手回し発電体験、VR 体験、廃化粧品を使ったアート体験

■ 県センター支援

出展内容は福岡女子大学生が企画し、県センターは気候変動や COOL CHOICE に関する情報提供、必要備品の購入、機材の貸出、印刷物の準備、当日の運営等を行いました。

今回は①COOL CHOICE クイズコーナー（パネルクイズや VR 体験等を通じて COOL CHOICE について学ぶ）、②廃化粧品を使ったアート体験コーナーの 2 コーナーで出展しました。

それぞれ体験した人がガラポンを回して景品がもらえるような仕組みで、景品も COOL CHOICE につながるようなもの（ひざ掛け、繰り返し使えるカイロ、エコバッグ等）としました。

来場者に対し適宜学生が解説を行うことで、省エネや COOL CHOICE について来場者の理解が深まったと考えられます。



COOL CHOICE 賛同数：

173 人

CO₂ みなし削減量：

24.8t-CO₂/年

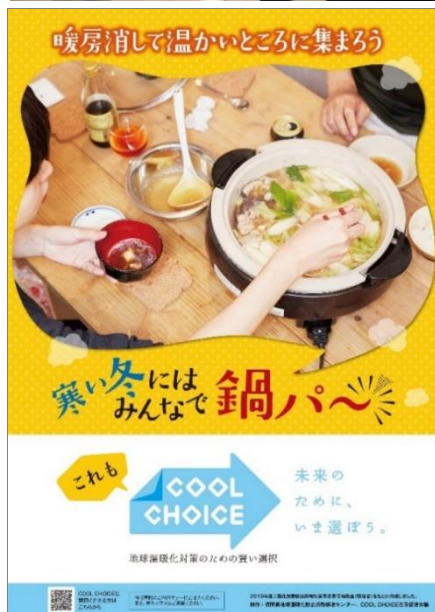
COOL CHOICE 普及促進会議

■ 概要

大学生へのCOOL CHOICE 普及啓発方法等について、大学生に直接意見を聞くCOOL CHOICE 普及促進会議を開催しました。

- 第1回：10月18日（金）
「大学生に訴求する CC 普及啓発方法について」
- 第2回：11月12日（火）
「CC を普及させるためのポスターについて」
- 第3回：12月10日（火）
「ポスター案のブラッシュアップについて」

開催時間：18：30～21：00
開催場所：福岡市天神貸会議室
参加者：学生6名（3大学×各2名）
センター職員3名



第1回：COOL CHOICE を普及させる方法

自分たち大学生に広く COOL CHOICE を普及させるにはどんな方法があるのかについて議論しました。

- ① **学内でできること**
講演、ステッカー・ポスター等掲示、食堂のトレーに掲示、学内メールで配信等
- ② **SNS・広告でできること**
#COOL CHOICE の利用、電車・バス・商業施設に広告等
- ③ **その他**
芸能人の活用、環境ラップの作成・配信等

第2・3回：COOL CHOICE ポスター案の作成

第2・3回の会議では、「県内在住の大学生を対象」に「COOL CHOICE を知ってもらうことを目的」として、「福岡市近郊の駅構内」に「1～2 月にかけて掲示するポスター」を学生に考えてもらいました。

その結果、「鍋パは大学生と親和性が高く、時期もよい」「COOL CHOICE の認知度が低いので、マークは大きく入れる」「イラストよりも写真の方が目につきやすい」等の意見から、ポスターを作りました。

ポスターの掲示

福岡市内の学生がよく利用する JR および地下鉄の駅構内の以下の期間に、ポスターを掲示しました。

- 2/3～2/28 福岡市営地下鉄七隈線：福大前駅
- 2/10～2/28 JR 筑肥線：姪浜駅
JR 鹿児島本線：博多駅、南福岡駅、
二日市駅、吉塚駅、千早駅、香椎駅、
九産大前駅、福工大前駅



環境省補助事業

8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

ワークショップの開催

COOL CHOICE を普及するためのワークショップを2回開催しました。

●開催日：7月31日（水）

場所：九州大学伊都キャンパス

対象：九大生9人

内容：気候変動の現状と、COOL CHOICE を若者に普及させるためのポスター案を考えるワークショップ

●開催日：2月21日（金）

場所：福岡市天神貸会議室

対象：県内大学生（1～4年生）12人

内容：2グループに分かれて、気候変動対策のうち自分たちでできることとして、COOL/WARM SHARE を推進するイベントを企画・発表する

九州大学

九州大学では、気候変動や COOL CHOICE に関する話題提供を行った後、COOL CHOICE を若者に普及するためのポスター案を各自1枚作り、自分の案を発表しました。右と左で間違い探しのような紙面にする、友達と楽しく過ごすウォームシェアを題材にするなど、様々なアイデアが出ました。



楽しみながら快適を「シェア」する方法とは？県内大学生対象ワークショップ

県センターより気候変動の現状と将来予測の話題提供を行った後、2グループに分かれて人々が快適をシェアするイベントの企画を作成しました。各グループともそのイベントを行うことでどんなアウトカムがあるのか、どんなSDGsの達成に寄与するのかなどを発表しました。

グループワーク後のふりかえりの一言では、普段会わない他大学・他学年の学生と一緒にグループワークを行うことにより良い刺激になったという言葉が聞かれました。



事業全体の普及啓発人数：

1,658人

COOL CHOICE 賛同数：

827人

8-3 推進員の支援

■ 推進員研修会

県センターでは、年1回県センター主催の推進員研修会を開催しています。

今年度は推進員活動に焦点を当て、基調講演、各地域の活動発表、パネルディスカッションを行いました。

1. 基調講演

「地球温暖化防止活動推進員に期待される活動について」

全国ネット専務理事：秋元智子氏

2. 各地域推進員の活動発表

3. パネルディスカッション

「これからの推進員活動のあり方について」

参加者数：54人

福岡県地球温暖化防止活動推進員研修会

近年、気候変動問題をめぐって国内外で様々な動きがあり、普及啓発事業もこれまでと違ったやり方が求められています。そこで、推進員活動を今一度見直すこと、また推進員の横のつながりを強化することを目的として研修会を開催しました。今回の研修会では、他地域の推進員活動を知ることができ、自分たちの活動を客観的に見るいい機会となりました。



九州沖縄ブロック合同推進員研修会の参加

九州・沖縄地区の各地域センター及び推進員が集まり、各地域の活動紹介のほか、情報交換などをする研修会です。

● 1日目

10/9 (水) 13:00~17:00

- ・各地域センターの活動紹介
- ・推進員の活動紹介
- ・活動の意見交換

● 2日目

10/10 (木) 9:30~12:30

- ・研修「知って深めてSDGs」
- ・SDGsカードゲーム
- ・研修の振り返り

各地域センターの推進員活動紹介では、福岡県の推進員による高齢者向けの熱中症と温暖化のコラボ企画講座が注目されました。専門の方と協働してより確かな情報を伝えるという啓発方法は、他県の推進員にも有益な情報になったと思われます。



推進員活動手引書の作成

推進員活動を円滑に進めていくために、県センターでは推進員活動のあり方（市町村担当者との連携、活動計画の立て方など）、貸出資材一覧、温暖化に関する Q&A、推進員プロフィール等を掲載した活動手引書を推進員の任期に合わせて 2 年毎に作成、配布しています。



推進員相談窓口の設置

推進員活動における疑問点や相談事について、直接面談しながら解決したいという方のために、センターで相談を受けており、その際の交通費の支給を行っています。今年度の相談内容は、自らが講演を行う際の PPT 資料のチェックや相談、センターからの情報・資料提供などでした。

推進員 OJT 研修

県センターでは、講師を希望する方に対して実際の講演を見学することで、講演のノウハウ（当日の進め方、機材の使い方、話し方など）を学ぶ OJT 研修を実施しています。今年度はのべ 4 人を対象に OJT 研修を実施しました。今後も引き続き希望者には OJT を実施し、講師登録者を増やしていきます。

今後の課題

おわりに、2019年度に県センターが実施した事業を振り返るとともに、今後の課題や展望について以下のとおり記します。

- ・ **セ**ンターの基幹事業である地球温暖化防止に関わる情報提供、広報・啓発として、センター情報誌「減CO2クラブ」や福岡県環境家計簿を用いて、持続可能な開発目標（SDGs）や気候変動対策に関わる情報を県民に発信してきました。今後も、ふくおかエコライフ応援サイトの充実を図りながら、新たな情報発信に努めてまいります。
- ・ **セ**ンター第4期目から拡充が図られた「NPO、企業、行政とのネットワーク化」では、今年度もNPOや企業団体と連携したイベントや講座、また行政機関が主催する様々な協議会への参加等を意欲的に取り組んできました。次年度以降もネットワークの維持、継続に努めます。
- ・ **エ**コファミリー応援事業は、これまで紙媒体で行っていた登録、取組報告が終了し、2020年3月より「ふくおかエコファミリー応援アプリ」を使って事業展開が図られることとなります。県センターとしては、このアプリの普及拡大を福岡県と共同して行っていきます。
- ・ **環**境省補助事業では、今年度より大学と連携して若い世代への国民運動「COOL CHOICE」の普及啓発を始めました。次年度も県内の大学生らとコミュニケーションを図りながら、様々な事業を企画、推進していきます。



福岡県地球温暖化防止活動推進センター

(一般財団法人 九州環境管理協会内)

〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1

☎ 092-674-2360 ✉ fcca@keea.or.jp

<https://www.ecofukuoka.jp>

